

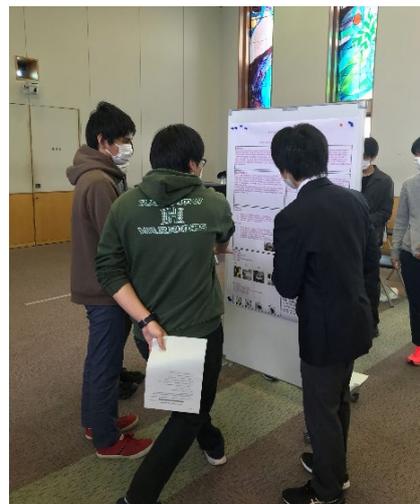
学校応援プロジェクト 2021 年度活動報告 中央大学附属中学校・高等学校との連携取組み

中央大学附属中学校・高等学校では、自ら立てた「問い」について探究活動やフィールドワーク等の体験型学習を行い、その成果を卒業研究・卒業発表につなげていく「教養総合」という科目を教育の柱のひとつとして展開しています。

今年度はいくつかの授業に学校応援プロジェクトの学生が参加し、中学生・高校生の学びのサポートを行いました。

高校 2 年生「教養総合 I」

:SDGs をテーマに、外部の企業と連携した取組みを行うグループの活動に学生が参加し、チューター役を務めました。オンラインも活用しながら生徒が行う企画会議のファシリテートや実際の活動におけるサポート等を行いました。



高校 3 年生「Project in English」

: 2020 年度に続き、卒業発表会に参加しました。今年の参加メンバーは、来春から英語科の教員になる学生、大学院に進学して英語科の専修免許状取得を目指す学生など、昨年度よりもさらにパワーアップ！

生徒によるポスターセッションに参加し、発表者にもそれを聞いている生徒にも英語で積極的に質問をなげかけます。生徒からは、「自分のプレゼンを楽しんでもらえている感じがしたのでやってよかったと思いました！」「大学生の皆さんの質問攻めがきつく、スポーツをした後くらい疲れた」等の感想が寄せられました。

中学 3 年生「教養総合基礎」

: 2021 年度から新設された科目です。11 月の中間発表会と、1 月の授業に参加しました。

11 月の中間発表会では、中学生が立てた「問い」とそれについて探求したことについての報告を聞き、アドバイスをを行いました。

1 月は最終発表に向けたポスター作成を行う授業に 2 回参加し、「自分の伝えたいことが明確になっているか」「筋道が通った説明になっているか」などの観点からアドバイスをを行いました。大学のゼミ等での発表経験をもとに「原稿をつくっても発表のときは読めないから、こういうメモをまとめておくといいよ」など、実践的なアドバイスもあり、好評だったようです。



中央大学附属中学校・高等学校からは、大学生が授業に入ることで生徒たちの真剣度が増す、年齢の近い学生ならではの実体験に基づいたアドバイスを受けることができるなど、うれしいお声をいただいています。

その一方、大学生側にとっても、相手に応じた伝え方や支援の仕方について実体験できる、探求型学習の一端を経験できるなど、大変貴重な経験ができる機会となっています。授業終了後に生徒達から「また来てください！」と声をかけてもらったり、窓から手を振ってもらったりということも少なからずあり、その点でも大きな充実感を感じることができています。

2022 年度はこの連携をさらに発展させていくことを計画しています。

※科目名称は 2021 年度時点のものです。2022 年度以降はカリキュラム変更に伴い一部科目の名称が変更となります。

※中央大学附属中学校・高等学校の「教養総合」の取組みについては同校のホームページにて紹介しています。

<https://www.hs.chuo-u.ac.jp/school/sc-education/sc-liberal-arts/>